

明石コミ懇

「AI恐れることない」

田中・甲南大教授が講演



明石コミュニティー懇話

会(事務局・神戸新聞明石総局内)の10月例会が8日、ホテルキャッスルプラザ(明石市松の内2)で開かれ、甲南大知能情報学部教授の田中雅博氏が「迫りくる人工知能の時代」と題して講演した。写真は、要旨は次の通り。

人工知能(AI)に明確な定義はない。主な技術と

しては人間の神経回路を模したニューラルネットワークという数学的モデル。さらに高度化するとディープラーニングと呼ばれる。

もう一つは、センサーで認識した画像のデータを調べ、ロボットなどに伝えるという応用システム。車の自動運転がこれに当たる。

近年、掃除ロボットなどのようにAIが生活に入り込んでいる。AIの応用分野は音、言葉、画像。例えば画像では多く覚えさせることで、ある程度異なる状態の画像を見ても予測して判別できる。これを汎化性と呼ぶが、今や人間だけではなく、AIも強くなってきた。今後もAIの進化は止められないが、恐れることとはない。人間に役立つ能力に特化したAIを開発する限り、人間の知能を超える「シンギュラリティ」は起こりえない。

(まとめ・小西隆久)